

科目分類	助産学実践科目 実践・関連			開講時期	1年	通年
科目名	地域母子保健論					
選択/必修	必修	単位数(時間数)	1単位	15時間	授業形態	講義
担当教員	野々山 未希子					
メールアドレス	m-nonoyama@tsuruga-nu.ac.jp	オフィスアワー	指定なし 事前連絡必要			

授業目的	<p>1) 地域母子保健の目指すもの(理念・目的)と仕組み(母子保健施策)について説明できる。</p> <p>2) 母子保健統計及び母子保健活動に関わる法律が説明できる。</p> <p>3) 個人・家族・地域の育児力を高めるための地域母子保健の支援方法を説明できる。</p> <p>4) 地域母子の健康課題を把握し、保健計画を立案する方法を説明できる。</p> <p>5) 地域母子保健における助産師の役割について考えることができる。</p>
授業概要	<p>母子保健統計や事例分析を通して、地域母子保健の目指すものとその仕組み、地域母子保健を推進する社会資源の活用、地域母子保健の展開について教授する。また、実習終了後に、座学で学んだことと実習で学んだことを統合して、地域で生活する母子の健康課題への対処のあり方を検討する。</p>
授業計画	<p>第1～4回 様々な場での母子保健の意義、活動 地域母子保健の概念と意義、地域母子保健活動の変遷、健やか親子21と母子保健活動 助産師による訪問と支援の必要性、助産師による子育て支援、学校保健と母子保健、産業保健と母子の支援</p> <p>第5～7回 産褥期の健康教育と保健指導 産褥期の健康教育と保健指導の意義、助産師の役割、健康教育・保健指導案の作成</p> <p>第8回 まとめ・発表 学修内容と助産学実習での学びを統合し、地域母子保健活動における助産師の役割についてまとめ、発表する</p>
教材 参考文献等	教科書：助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健，医学書院
成績評価 基準・方法	参加態度・課題 50% 最終レポート 50%
履修要件	なし
留意事項 その他	課題の作成に当たっては、看護での既習範囲に加えて、自分で資料を収集し、自分の考えをまとめ、伝えること。